

プレスリリース

2014年 5月 15日

独立行政法人農業環境技術研究所

独立行政法人海洋研究開発機構

エルニーニョ／ラニーニャと世界の主要穀物の生産変動との関係性を解明

トウモロコシ、コメ、コムギの年ごとの収量は世界平均値で見るとエルニーニョ年とラニーニャ年のいずれでも平年収量を下回る傾向にあります。ダイズはエルニーニョ年に平年収量を上回る傾向にあります。ラニーニャ年には平年並みとなる傾向があります。

エルニーニョ年に収量への有意な影響が見られた地域は、正と負の影響のいずれでも広範な地域にわたります。一方、ラニーニャ年に収量への有意な影響が見られる地域はエルニーニョ年よりも限定的です。

しかしながら、世界全体で見ると、エルニーニョ年には正と負の影響が相互に打ち消し合う傾向が強いものの、ラニーニャ年には打ち消し合う傾向が弱いため、穀物によっては世界平均での負の影響がエルニーニョ年よりも大きくなっています（コメ、コムギ）。

本研究成果は、英国科学誌「Nature Communications」に受理され、2014年5月15日発行のオンライン版に掲載されました。

詳細は[農業環境技術研究所のサイト](#)をご覧ください。

国立研究開発法人海洋研究開発機構

広報部 報道課長 野口 剛